

## 昭和61年度奨励金及び山本賞贈呈式等について

日時 昭和61年11月6日(木) 13:00~14:20

場所 名古屋市千種区池下町 2-63

愛知厚生年金会館 鳳凰の間

### 次第

#### 1. 理事長挨拶

中村理事の進行、樋口中部支部長の司会のもとに山元理事長から第24期の理事会は過日の選挙で選任された新理事で構成し、私が引き続き理事長に選ばれて、学会の運営を担うこととなった。前期からの宿題があり、これをもとに取り組むとして、おおむね次のような挨拶があった。

##### (1) 会員数の動向について

会員数は会員の努力のお蔭で増加の傾向にあり、11月1日現在 4,326、本年2月1日より158名増である。会員数の動向が直接予算にひびくので、今後とも引き続きこの問題に取り組んでいく。会員からの意見を期待する。

##### (2) 国際学術交流基金の推進について

国際学術交流基金で、若い学会員の外国での活動の援助あるいは東南アジア諸国の研究者への渡航援助を行っている。会員からのカンパは現在約70名から計約40万円が集まり、学会からの積立金を合せて、基金が410万円を超えることになった。将来さらにこの基金を充実したものにしてゆくため、今後諸団体への協力依頼をすることにしていく。会員から引き続きご協力を願いたい。

##### (3) 日本学術会議会員の推薦方式について

昭和63年早々には候補者の確定が必要となる。このため、推薦方式を定め、候補者及び推薦人を決めなくてはならない。昨日の理事会で検討したが引き続き常任理事会で案を練り、62年の総会には案を諮る予定である。

##### (4) 以上の事柄は、前期からの宿題にかかわることであるとし、当面の学会活動について、おおむね次のような報告があった。

##### ア. 事務総長のポストを設ける構想について

学会の予算が1億円近くなってきた。学会の事務も量的、質的になってきており、国際的な立場の問題などが増えている。事務局員も雑務案件の処理に追われている。かようなことから事務局長あるいは事務総長的な人を置き、

事務を統轄し、また、学会の事務運営の将来構想をたててもらいたいとの構想もっている。昨日の理事会で意見をいただいた。今後、職務権限、報酬などについて検討を重ね、可能ならば来年度から実行に移したい。

##### イ. 学会の大会にポスターセッションを設けることについて

これについては、目下アンケートでサーベアーしているところである。今大会では総合討論の場が設けられ、大変好評を得ている。これらを踏まえ検討を重ねて、62年度春季大会(場所筑波大学)で設ける予定である。

##### ウ. 気象集誌、天気著作権の問題について

著作権が気象学会に帰属することを明文化することで、目下案文を検討中である。

##### エ. 国際数値予報シンポジウムのプロシーディングスの刊行について

本年8月気象庁において、IUGG/WMO主催の短期・中期数値予報国際シンポジウムが開催された。このときのプロシーディングスを気象集誌の特別号として刊行するよう、目下松野理事のもとで編集委員会が作業中である。この予算には諸団体の協力が得られている。

##### オ. IAMAP 総会(1993年)の日本への招致について

IUGGの総会が1987年8月バンクーバーで開催されるので、このときに1993年のIAMAP総会を日本に招致することの根回しをしてはどうかとの問題がある。目下検討中であるが、考えのある会員は意見を寄せていただきたい。

##### カ. WCRP の活動について

WCRP の計画が当面4年間を目標にして立てられ、政府(文部省)の62年度予算案に盛り込まれる予定である。中層大気国際協同観測計画(MAP)が本年度で終わることになるが、この研究も続けられる。

#### 2. 昭和61年度日本気象学会奨励金贈呈式

奨励金受領候補者選考委員会委員長から選定理由の説明があつて、理事長から次の会員に賞状と奨励金が贈呈された。

##### (1) 大奈 健会員(広島地方気象台)

局地循環の解明について

- (2) 江上 公会員 (尾鷲測候所)  
連続降雨形曲線及び降雨災害の研究
- (3) 半田 孝会員 (大阪府立花園高等学校)  
気象教育に適した観測法の開発とその応用
- (4) 瀧島幸市会員 (東京都江戸川区立松江第二中学校)

身近な気象教材の開発とその活用—微気象観測や衛星画像の利用—

### 3. 昭和61年度山本賞贈呈式

山本賞補候補者推薦委員会委員長から選定理由の説明があつて、理事長から次の会員に賞状及びメダル並びに賞金が贈呈された。

笹野泰弘会員 (国立公害研究所)

ミー散乱ライダーによる大気混合層及び遷移層の構造の観測

### 4. 昭和61年度山本賞受賞記念講演

受賞者笹野泰弘会員による受賞記念講演があつた。

## 日本気象学会国際学術交流基金への募金のお願いと寄付者御芳名 (第7報)

日本気象学会は、かねてから各国の気象関係組織および研究者との学術交流を図るため、国際学術交流基金をもうけて、学会もしくは会員の学術交流の援助を目的とした活動を致しております。実施にあたっては、外国で開催される国際学術研究集会への会員の出席の補助、国際学術交流に貢献する事業の援助などです。昨年は、少額ですが IAMAP への若手研究者の出席の援助を実施し、また、中国気象学会との交流などを致しました。

本来この基金は、少なくとも一千万円程度の元金があつて、その利息で活動費をまかなうことを目標としていますが、現在のところ、その過渡期として、学会自身の年間予算から毎年約百万円を積み立て、並行した、わず

かの一般事業費と篤志による個人寄付金で活動を行っております。

基金の基礎を固めるためには、是非、会員の皆様からの御寄付をお願いします。理事会としては、さらには大口の団体寄付を仰ぐべく努力致す所存です。国際学術交流基金の趣旨を御理解いただき、12月号挿入の振替用紙を御利用の上、一口千円として、なるべく多くの御寄付をお願いします。

なお、募金期限は昭和62年12月末日と致しますが、早い時期にお振り込みいただきますようお願いいたします。

昭和62年1月

日本気象学会

昭和61年12月31日現在、下記の会員からご寄付がありましたので、お礼を兼ねて報告申し上げます。

なお、引き続き会員各位のご協力の程お願い申し上げます。

### 記

柴崎和夫、小元敬男、武田喬男、樋口敬二、小野 晃、岩坂泰信、田中 浩、中沢哲夫、岩嶋樹也、能登正之

(2回目)、中田豊治、富田正夫、木田秀次、正木 明、高橋忠司、廣田 勇、朝倉 正、水間満郎、桜井兼市、仲里 正、伊藤昭三、戸松喜一、藤部文昭、笹野泰弘、小松 巖、荒生公雄、島川甲子三 (入金順、敬称略)

以上27名 合計口数 146口 146,000円

累計94名 総口数 537口 537,000円

61.12.31 現在 国際学術交流基金額 4,400,000円